部　会　報　告

ISO/TC 195（建設用機械及び装置専門委員会）米国・オースティン国際会議及びナッシュビル特設グループ会議報告

標　準　部　会

2017 年 11 月 7 日～ 10 日の 4 日間，米国オースティン市で開催された ISO/TC 195（建設用機械及び装置専門委員会），SC 1（コンクリート機械及び装置 分科委員会），WG 5（道路建設及び維持用機器―用語及び商業仕様 作業グループ），及び WG 9（自走式道路建設用機械及び装置の安全要求事項 作業グループ）の国際会議に日本代表として出席したので，その内容を報告する。また，その翌週，2017 年 11 月 13 ～ 15 日の 3 日間，米国ナッシュビル近郊で開催された WG 9 傘下の AHG（特設グループ）会議にも専門家代表として出席したので，あわせて報告する。

1. はじめに

ISO/TC 195 国際会議は毎年 10 月頃開催され，今回は AEM（米国機器工業会）の招致により，テキサス州オースティン市 One Eleven Congress Plaza の会議室において**表―1** に示す日程で行われた。

今回，日本からは**表―2** に示す 3 名が使節団として参加した。

各国からの TC 195 会議出席者は，中国（7）（幹事国），ドイツ（8）（ツイニング幹事国），フランス（4），米国（4），韓国（3）及び日本（3）の各 TC 195 関係者であり，6 ヶ国 延べ 29 名であった。

写真―1　One Eleven Congress Plaza 外観

表―1　ISO/TC 195 各会議日程

日　時	場　所	会　議　名
11 月 7 日（火）	One Eleven Congress Plaza Building	SC 1（コンクリート機械及び装置：日本が議長及び幹事国）本会議
11 月 8 日（水）		WG 9（自走式道路建設用機械及び装置の安全要求事項）作業グループ会議
11 月 9 日（木）		WG 5（道路建設及び維持用機器―用語及び商業仕様）作業グループ会議
11 月 10 日（金）		ISO/TC 195 本会議

表―2　日本からの出席者

氏　名	所　属	役　割
川上 晃一	日工㈱	ISO/TC 195/SC 1 議長
清水 弘之	KYB㈱	ISO/TC 195/SC 1/WG 4 コンビナー
小倉 公彦	JCMA 標準部	ISO/TC 195 事務局，ISO/TC 195/SC 1 国際幹事

表―3　ISO/TC 195/WG 9/AHG 会議日程

日　時	場　所	会　議　名
11 月 13 日（月）	WIRTGEN AMERICA	WG 9/AHG 2 会議（自走式道路建設機械の視界性）
11 月 14 日（火）		
11 月 15 日（水）		WG 9/AHG 8 会議（自走式フィーダ）

写真―2　WIRTGEN AMERICA 入口看板

また，TC 195 国際会議の翌週には，WG 9 コンビナー国ドイツによる傘下 AHG（Ad Hoc Group：特設グループ）会議がテネシー州ナッシュビル近郊アンティオークの WIRTGEN AMERICA トレーニングセンター会議室において**表―3** に示す日程で開催され，こちらは事務局 1 名が参加した。

各国からの AHG 会議出席者は，ドイツ（4）（コンビナー国），米国（3）及び日本（1）の各 TC 195/WG 9 関係者であり，3 ヶ国 延べ 8 名であった。

なお，今年も経済産業省施策「平成 29 年度国際幹事等国際会議派遣事業」による支援を受けての出張となった。

【会議出席の目的】

ISO/TC 195/SC 1 議長国として SC 1 会議を運営し，各国提案の進捗を図るとともに，SC 1/WG 4 コンビナー国として日本から提案中の「トラックミキサー Part 1：用語及び商業仕様」を推進する。

専門家の代表として WG 5，WG 9 会議に参加し，日本の意見を具申するとともに，WG 9/AHG 2，AHG 8 会議にも出席し，WG 9 特設グループの動向を把握する。

ISO/TC 195 本会議に出席し，SC 1 決議事項の報告を行うと同時に，TC 195 全体の動向及び他 TC との連携に関する情報収集を行い，傘下各作業グループにおけるプロジェクトの進捗状況を把握するとともに，P メンバ国として日本の意見を具申する。

なお，2016 年末に任期満了した前 SC 1 議長・大村氏の後継者として，同年 10 月のパリ国際会議で承認された新 SC 1 議長・川上氏による最初の SC 1 会議を円滑に運営することで，引き続き日本のリーダシップを顕示する。

2. 会議概要

1）ISO/TC 195/SC 1 本会議（11 月 7 日）

出席者：日本（3），中国（6），ドイツ（5），米国（5），フランス（3），韓国（3）／議長：川上氏，SC 1/WG 4 コンビナー：清水氏，幹事：小倉 他　計 25 名

議長川上氏の司会で議事が進行され，次の項目につき決議が採択された。

決議 1：テキサス州オースティンでの SC 1 総会開催を準備し運営した AEM 事務局に謝意を表明する。

決議 2：決議起草委員会として，フランス・米国・ドイツ・中国・日本より 5 名が任命された。

決議 3：2016 年 10 月 13 日から 2017 年 11 月 6 日までの間に SC 1 が行った活動について，幹事による報告（Doc N 292）が承認された。

決議 4：委員会内投票結果による SC 1/WG 5 コンビナーの任期更新（～ 2020 年 5 月迄）の確認について，幹事による報告（Doc N 293）が承認された。

決議 5：DIS 19711-1.2 トラックミキサ：第 1 部―用語及び商業仕様―日本提案　第 2 次 DIS 投票結果の報告及び討議

コンビナー／幹事による，前回 DIS 投票以降の経緯：WebEx 会議開催状況，第 2 次 DIS ドラフト作成及び第 2 次 DIS 投票結果の報告（Doc N 294）を審議し，作業グループは更なる議論を奨励された。各国専門家は，12 月中旬までに Doc N 294，N 295 に対しコメント／フィードバックするよう求められた。FDIS ドラフト準備に先立ち，特に最終段階で集約されたコメントに対処する為，2018 年 1 月に（WebEx で）会議を開催する。FDIS 投票開始の為の最終ドラフトを 2018 年 4 月までに幹事へ提出する。

決議 6：PWi 19711-2 トラックミキサ：第 2 部―安全要求事項に関する将来プロジェクト

コンビナー／幹事による報告（Doc N 294）が受理され，PWi 19711-2 がプロジェクトとして登録されたことを確認した。

決議 7：ISO 19720-1 コンクリート及びモルタル準備用プラント：第 1 部―用語及び商業仕様―中国提案 FDIS 投票結果及び発行の報告

SC 1/WG 5 コンビナーの報告（Doc N 297）が受理された。

決議 8：PWi 19720-2 コンクリート及びモルタル準備用プラント：第 2 部―安全要求事項に関する将来プロジェクト

コンビナーによる報告（Doc N 297）が受理され，PWi 19720-2 がプロジェクトとして登録されたことを確認した。

決議 9：安全関連新業務提案の準備に関する情報交換／議論

幹事が報告（Doc N 298）の中で提案した CEN 専

門家との協力方法に関するオプションについて議論し，以下を決定した。

CEN/TC 151/WG 8 に対し，2018 年の ISO/TC 195/SC 1 総会が欧州で開催される場合，その開催地及び期間にあわせて同 WG 会議の開催を検討するよう提案する。これにより，SC 1 のリエゾンオフィサーが CEN/TC 151/WG 8 の会議に参加し易くなり，同様に CEN/TC 151/WG 8 専門家も使節団として SC 1 総会への参加が容易になる。

決議 10：ISO 13105-2 コンクリート表面こて仕上げ機械―第 2 部：安全要求事項及び検証―　改正に関する更なる進捗の報告

ISO 13105-2の更なる改正に向けた，全身振動（WBV: Whole Body Vibration）の科学的研究に関する米国 SC 1/WG 2 コンビナーのプレゼンテーションが受理された。今後も WBV に関する研究を奨励する。

決議 11：定期的見直し　昨年締め切られた定期的見直し（SR）投票結果に関する報告

ISO 18651-1 内部振動機―第 1 部：用語及び商業仕様，ISO 18650-1 コンクリートミキサ―第 1 部：用語及び一般仕様，ISO 21573-2 コンクリートポンプ―第 2 部：技術パラメータの試験方法の 3 件に関する定期的見直し結果の報告（Doc N 300）を検討した。

決議 12：定期的見直し結果　ISO 21573-2 コンクリートポンプ―第 2 部：技術パラメータの試験方法

中国の報告（Doc N 303）による ISO 21573-2 見直しの提案を検討し，以下を決議した。

―定期的見直しの結果（Doc N 287）に基づき，コメント表（Doc N 302）に集約された意見を考慮し，ISO 21573-2 を見直す。ただし，適用範囲に含まれていない安全に関する側面は，除外する

―中国コンビナーによる WG を設立し，並行して作業項目を WD として登録する

― WG が設立され次第，幹事は遅くとも 2018 年 1 月半ばまでに専門家の招集を開始する

― WG コンビナーは次回総会で状況を報告する

決議 13：定期的見直し結果　ISO 18650-1 コンクリートミキサ―第 1 部：用語及び一般仕様

以下を決議した。

―定期的見直しの結果（Doc N 286）に基づき，コメント表（Doc N 301）に集約された意見を考慮し，ISO 18650-1 を見直す

―米国をプロジェクトリーダ（追って任命）とする WG を設立する

―作業項目を WD として登録する

― WG が設立され次第，幹事は遅くとも 2018 年 1 月半ばまでに専門家の招集を開始する

― WG プロジェクトリーダは次回総会で状況を報告する

決議 14：ISO/TPM による ISO committee Updates

ISO 業務指針の変更点に関する説明（Doc N 304）を受理した。前任 TPM（テクニカルプロジェクトマネージャ）の長年にわたる貢献に感謝し，今後の健勝を祈念する。新任 TPM を歓迎し，実りある協力に期待する。

決議 15：将来の新業務項目提案の計画

“コンクリート機械―施工現場情報交換”の新業務項目提案に関する中国の提案（Doc N 305）について議論し，以下を決議した。

―本件の需要（適用範囲，作業プログラム，開発期間など）について精査する

― TC 195 リードで，SC 1 幹事が TC 127 とのジョイント作業グループを設立する

―中国コンビナーによるジョイント作業グループ設立後，専門家の招集を開始し，各メンバ国は Doc N 305 の提案に対するコメントを（3 ヶ月以内に）提出する

―ジョイント作業グループは，2018 年の次回総会で状況を報告する

決議 16：次回会議の開催

次回 SC 1 総会は，2018 年に開催される ISO/TC 195 総会に合せて計画する。

過去 3 ～ 4 年，EN 見直し作業の優先により停滞を余儀なくされている SC 1 の安全要求に関連するプロジェクトを前進させる為，CEN/TC 151/WG 8 の活動本拠地であるドイツで 2018 年の TC 195 総会を開催するよう要求し，あわせて 2019 年の TC 195 総会を日本で開催したい，という提案とともに了承された（**決議 9**）。

写真―3　SC 1 会議風景

写真―4 WG 9 会議風景

2）ISO/TC 195/WG 9 会議 （11 月 8 日）

出席者：ドイツ（7），米国（5），中国（4），フランス（4），韓国（3），日本（3） ／コンビナー：ドイツ Hey 氏 計 26 名

ドイツコンビナーの司会で議事が進行され，次の項目につき議論された。

1 使節団の点呼

2 ドラフトアジェンダの承認

3 自走式道路建設機械の安全規格（EN ISO 20500 parts 1-5）

3.1 予備作業項目の起動―タイムスケジュール

3.2 前回会議の任務 / 宿題事項の検討

3.3 EN/ISO 20500-1 ～ -5 の見直し

3.4 特設グループの報告

3.4.1 瀝青煙霧／ガス

3.4.2 自走式道路建設機械の視界性

3.4.3 専用性能レベルの附属書

3.4.4 コンベヤ

3.4.5 遠隔操縦

3.4.6 ガード（5.10.2 項）

3.4.7 スクリードの振動

3.4.8 第 6 部―フィーダ

3.5 意見照会結果―路面切削機械の“粉塵吸引システム”の効率を評価する為の“排ガス低減装置（ERD：Emission Reduction Device）―性能要求及び試験要領”（EN ISO 20500-2 に新たな附属書を含める）

4 合意 / 決定事項のまとめ及び実施すべきこと

5 その他の事項

6 次回会議の日付及び場所

3）ISO/TC 195/WG 5 会議 （11 月 9 日）

出席者：ドイツ（7），米国（5），中国（4），フランス（4），韓国（3），日本（3）／コンビナー：ドイツ Piller 氏 計 26 名

ドイツコンビナーの司会で議事が進行され，次の項目につき議論された。

1 使節団の点呼

2 ドラフトアジェンダの承認

3 道路建設及び維持用機器―用語及び商業仕様規格

3.1 ISO/NP 15878 アスファルトペーバ／フィニッシャ―用語及び商業仕様

投票結果及び受領したコメント対応に関する議論

コメントを決議した。TC 195 幹事はプロジェクト状況を明確にする

清書版の文書を第 2 次 WD として 2018 年 1 月末までに回付する

3.2 ISO/NP 15643 瀝青結合材撒布車／噴霧車―用語及び商業仕様

NWIP の状況（投票期限 2017/8/11）― 決議 10/2016

TC 195 幹事はプロジェクト状況を明確にする

結合材噴霧車／チッピングスプレッダを適用範囲に含めることに合意する

日本はコメントを明確化する

次回会議の為に，ISO 書式に従った最新版の第 2 次 WD を提供する

適用範囲の変更により，NP 投票開始を決議するよう TC 195 に要求する

3.3 ISO 15645 路面切削機械―用語及び商業仕様

コメントの議論及び軽微な改正の開始―決議 11/2016

新たな図 A2 を用意し，DAmd 2 に合意した。幹事は次の段階へと進める

4 合意 / 決定事項のまとめ及び実施すべきこと

5 その他の事項

6 次回会議の日付及び場所 必要であれば，次回 TC 195 総会にあわせて実施

4）ISO/TC 195 総会 （11 月 10 日）

出席者：中国（7），ドイツ（8），米国（4），フラン

写真―5 WG 5 会議風景

ス（4），韓国（3），日本（3）　／議長:中国 Li 女史，幹事：中国 Zhou 女史　計 29 名

中国議長の司会で議事が進行され，次の項目につき決議が採択された。

決議 1：謝辞

ISO/TC 195 は，今週のテキサス州オースティンでの会議運営に当った米国使節団，特に AEM（米国機器工業会）Moss 氏，AEM 会員のスポンサー会社（Caterpillar 及び Wirtgen），SAE 財団及び関係各位に謝意を表明する。オースティンの伝統的なテキサス BBQ レストランでのソーシャルイベントにも感謝する。

決議 2：決議起草委員会

米国，フランス，日本，中国及びドイツより 5 名が任命された。

決議 3：幹事の報告

あいにく出席できなかった幹事の代理として，ISO/TC 195 の活動に関する口頭報告を行ったアシスタント幹事に感謝する。ツイニング協定の実施状況に関するアシスタント幹事の報告にも感謝する。

決議 4：SC 1 活動の報告

SC 1 議長の報告及び SC 1 決議（Doc N 307）のプレゼンテーションに謝意を表する。

決議 5：TC 195/WG 2 コンビナーの報告

WG 2 コンビナーの簡潔な報告に感謝する。

決議 6：TC 195/WG 5 コンビナーの報告

WG 5 コンビナーのプレゼンテーション及び口頭報告に感謝する。

決議 7：ISO 15643“道路建設及び維持用機器―瀝青結合材噴霧車及び結合材噴霧車 / チッピング撒布車―用語及び商業仕様”の適用範囲変更に関する TC 195/WG 5 の承認要求

以下を考慮する：

― ISO 15643 の適用範囲変更に関する提案が WG 5 会議で示された

― NWIP ドラフト文書の準備に関してフランス専門家が同意した

― WG 5 が適用範囲見直しの為の NWIP 投票開始を承認するよう TC 195 に推奨した

― WG 5 の提案を受け入れることが TC 195 総会で合意された

以下を要求する：

―フランス専門家は NWIP 文書のドラフト作成を完了する

― TC 195 幹事はドラフトを受領次第，NWIP 投票を開始し，肯定的な結果が得られた場合はドラフトを DIS 段階（40.00）に登録するよう設定する

決議 8：TC 195/WG 6 幹事の報告

WebEx で行われた WG 6 幹事のプレゼンテーション及び口頭報告に感謝する。

決議 9：TC 195/WG 8 幹事の報告

WG 8 幹事の口頭報告に感謝する。

決議 10：WG 9 コンビナーの確認

新たに任命された WG 9 コンビナーを支持するとともに，長年にわたり WG 9 を統率した前コンビナーの貢献に感謝する。

決議 11：WG 9 コンビナーの報告

WG 9 コンビナーのプレゼンテーション及び口頭報告に感謝する。

決議 12：Road Operation Machinery の TC 297 への移管に関する議論

WebEx で行われた TC 195 幹事のプレゼンテーション及び口頭報告に感謝する。

決議 13：ISO/TMB タスクフォース 9 の報告

WebEx で行われた TC 195 幹事のプレゼンテーション（Doc N 1270）及び口頭報告に感謝する。

決議 14：新たな SC“穿孔及び基礎工事用機械”

フランスのプレゼンテーションに感謝する。フランス AFNOR に対し，ISO/TMB TF 9 の最終決定を反映して Form 04 を見直すよう要求する。TC 195 の合意に関する ISO/TMB の決定が得られ次第，CIB（決議 15/2015 を参照）を回付することに合意する。

決議 15：自走式破砕機―生産能力の決定に関する新業務提案のプレゼンテーション

韓国のプレゼンテーションに感謝し，新業務提案の開始に向けた韓国 KATS の意図を了承する。プロジェクトは TC 195/WG 8 傘下が適切であり，承認の為の提出に先立ち，KATS は WG 8 専門家と連絡をとり，提案の適用範囲縮小を考慮すべきである旨を提言する。

決議 16：ISO/TC 127 のリエゾンレポート

TC 127 議長のプレゼンテーション及び注釈に感謝する。

決議 17：ISO/TC 82 のリエゾンレポート

TC 82 幹事のプレゼンテーション及び注釈に感謝する。

決議 18：ISO/TC 214 のリエゾンレポート

TC 214 幹事の文書による報告及び米国幹事の注釈追加に感謝する。

決議 19：CEN/TC 151 のリエゾンレポート

CEN/TC 151 幹事の文書による報告，CEN/TC 151 副議長のプレゼンテーション及び注釈に感謝する。

決議 20：ISO/CS によるアップデート

中国アシスタント幹事のプレゼンテーションによる，最新の ISO 業務要領及び ISO Meetings Portal に

写真―6 TC 195 本会議風景

関する ISO TPM の説明に感謝する。

決議 21：ISO/CS Kennedy 氏の退職通知

Kennedy 氏の ISO/TC 195 での業務に感謝を表明し，同氏の退職を祝うとともに健康を祈る。

決議 22：次回会議

次回 ISO/TC 195 総会を 2018 年 9 月 17 日～の週にドイツで開催（正確な開催地は追って確認）する，とのドイツ使節団の招致に感謝する。可能な場合，CEN/TC 151/WG 8 専門家及び幹事の都合にもよるが，会議の計画に当っては SC 1 決議 9/2017（CEN/TC 151/WG 8）を考慮する。

決議 23：2019 年の会議

次々回 ISO/TC 195 総会を 2019 年秋に日本で開催する，との日本使節団の申し出に感謝する。

ISO/TC 297「廃棄物の収集・輸送及び道路管理並びに関連装置」より要求のあった TC 195 業務範囲の一部移管に関して，2016 年 9 月に行われた TC 195 委員会内投票（CIB）ではフランスが特に強く反対，米国・中国・日本も反対票を投じた。しかしながら，同年 10 月にパリで開催された TC 195 本会議では，会議不参加の P メンバ国（6 ヶ国，すべて賛成）を含めると賛成多数の投票結果が報告され，意思決定の方法自体も論議の対象となるなど紛糾した。TC 127, TC 82 等，複数 TC 間で生じている業務範囲の重複を調整する ISO/TMB タスクフォース 9 が活動しており，その結論を待つ事となった。

翌年，ISO/TMB タスクフォース 9 より報告があり，改めて CIB を TC 195，TC 297 で同時に実施することとなった。Road Operation Machines（道路作業機械）の移管可否について単に Yes/No で回答した 2016 年の CIB とは異なり，「TC 297 の要求通り移管」或いは「従来通り TC 195 の所管とし，新たに ROM を扱う SC を同傘下に設置」のいずれかを選択し，各 TC の P メンバ国が回答するもので，日本と同じく移管反対を表明している UNM（仏 AFNOR 傘下の工業標準化団体）から協調の呼びかけを受けた。

2017 年 10 月に並行 CIB が締め切られ，その結果に関する ISO/TMB タスクフォース 9 の報告

写真―7 ISO/TC 195 本会議出席者

が，オースティンでの TC 本 195 会議で紹介された（**決議 12，決議 13**）。

2018 年 2 月に韓国ソウルで開催の ISO/TMB 会合において上記報告が議論され，推奨事項（Recommendation）である「Road Operation Machines の TC 297 への移管は認めず，TC 195 の傘下に SC 2（幹事国：ドイツ）を新たに設け，ROM を所管すること」が承認された後，ISO/TMB タスクフォース 9 は解散する予定。

5）ISO/TC 195/WG 9/AHG 2 会議（11 月 13 日及び 14 日）

出席者：ドイツ（4），米国（3），日本（1）／コンビナー：ドイツ Hey 氏　計 8 名

ドイツコンビナーの司会で議事が進行され，次の項目につき議論された。

1　使節団の点呼
2　ドラフトアジェンダの承認
3　ISO 5006:2017，EN 474-1:2006 + A5:2017 の見直し段階
4　道路建設用機械の視界性要求（途中，屋外で実機を見学し検証）
5　合意／決定事項のまとめ及び実施すべきこと
6　その他の事項
7　次回会議の日付及び場所

写真―8　WG 9/AHG 2 会議 実機検証風景

6）ISO/TC 195/WG 9/AHG 8 会議（11 月 15 日）

出席者：ドイツ（4），米国（3），日本（1）／コンビナー：ドイツ Oettinger 氏　計 8 名

ドイツコンビナーの司会で議事が進行され，次の項目につき議論された。

1　使節団の点呼
2　ドラフトアジェンダの承認

写真―9　WG 9/AHG 8 会議風景

3　受領したコメントに関する議論
4　次回会議の日付及び場所

※1　ISO 関連用語の解説

ツイニング：2 ヶ国による（幹事国）協同運営，コンビナー：（作業グループ）主査，プロジェクトリーダ：提案の推進責任者，セクレタリ：国際幹事

※2　ISO 規格用語の解説

TC：専門委員会，SC：分科委員会，WG：作業グループ，PWi：予備作業項目，NP：新業務，WD：作業ドラフト，CD：委員会ドラフト，DIS：国際規格ドラフト，FDIS：最終国際規格ドラフト，CIB：委員会内投票

※3　組織略語の解説

AEM：米国機器工業会，CEN：欧州標準化委員会
UNM：フランス機械及びゴム工業標準化機構
AFNOR：フランス規格協会

7）所感

この国際会議は今回で 26 回目になる。2017 年 1 月より川上氏が SC 1 議長に就任し，最初の本会議であったが，十分に準備され，滞りなく運営することができた。

SC 1/WG 4 は，コンビナー清水氏が日本提案（トラックミキサ―用語及び商業仕様）を推進しており，WebEx 会議を活用して早期に FDIS 段階へと進める。

予てより SC 1 で提案を予定している 2 件の Part 2―安全要求（PWi 19711-2 トラックミキサ，PWi 19720-2 コンクリート及びモルタル準備用プラント）は，欧州での対応 EN 見直し作業が長引き，未だプロジェクト開始の目途が立たない為，予備作業項目（PWi）として登録し，最長 3 年間は SC 1/WG 4，WG 5 の解散を回避できるようにした。更に，ISO/TC 195/SC 1 側のリエゾンオフィサーが CEN/TC 151/WG 8 会議へオブザーバ参加，或いは CEN/TC 151/WG 8 側の専門家を SC 1 本会議へ召喚するなど，相互に協力して進捗を図る必要があると主張し，ドイツ又は欧州域

内での次回 TC 195 本会議開催を提案したところ，中国・ドイツ及び各国の同意が得られた（**決議 22**）。

同時に，2019 年の TC 195 本会議を日本で開催することが了承された（**決議 23**）ので，今後，国内関係者に協力を求め，1 年後に向けて準備を整えていく必要がある。

ドイツがコンビナー国を務める WG 9 は，近年，TC 195 国際会議以外にも WG/AHG 会議を頻繁に開催しており，早期に情報を入手し的確に対応する為には，これらの会議へも日本から専門家を派遣できるのが望ましい。

今後も，各国意見の調整を図ると共に SC 1 の活動を促進し，TC 195 及び他 WG へも積極的に意見具申していくことで，建設用機械及び装置産業における日本の国際競争力維持・発展に貢献する。

また，タスクフォース 9 の報告を受け，TC 195/TC 127/TC 82/TC 297 間で適用範囲の調整が適正に行われるよう，引き続き情報収集に当る。P メンバ国として日本意見の調整・発信に努めるとともに，TC 297 国内委員会の構成団体である JABIA（(一社）日本自動車車体工業会）殿とも連携を図る。

8）その他

今回 ISO/TC 195 国際会議の開催地となったテキサス州オースティンは，ダラス，ヒューストン，サンアントニオに次ぐ人口規模（約 80 万人）を有する同州の州都であり，ダウンタウンの中心部にはテキサス州会議事堂がある。ライブ音楽の中心地でもあり，テキサス大学オースティン校，同校と連携する IT ベンチャーやハイテク産業の拠点が丘陵地に集積している様子から“シリコンヒルズ”とも呼ばれるが，日本ではあまり馴染みがない。会議場ビル One Eleven Congress Plaza が面している Congress Avenue（議会通り）を南下すると，コロラド河を渡る橋に通じる。コロラド河は，タウン・レイクと呼ばれる人造湖に接続している。会議場周辺はよく整備されているが賃料も高いせいか，人気が少ない。一歩オフィス区画を離れれば，たまに大音量のライブ演奏が聞こえる事もあるが，街全体として活気が感じられない。

写真―10　議会通りからテキサス州会議事堂を望む（写真提供：川上氏）

いっぽう，WG 9/AHG 会議の開催地となったアンティオークは，テネシー州ナッシュビルの南東部に位置し，独ヴィルトゲン社の米国法人事務所がある。隣接するトレーニングセンターが 2017 年 10 月に完成したばかりで，その会議室を利用した。また，ヴィルトゲングループ製品の屋内展示だけでなく，ヤードには多種多様な自走式道路建設用機械が多数保管されており，会議の途中に全員で屋外に出て，実機に乗り降りするなどして，複数の運転位置や可動式座席を有する機械の視界性を検証することができた。

写真―11　ヴィルトゲントレーニングセンター屋内展示

写真―12　ヤード内に保管されているフィニッシャ／ペーバ

ナッシュビルは，メンフィスに次ぐ人口規模（約 65 万人）を有するテネシー州の州都であり，カントリー音楽の中心地でもある。ダウンタウンを東西に走るブロードウェイ周辺には，公会堂，音楽殿堂博物館，フットボールスタジアム，アイスホッケーチーム本拠

写真―13　ナッシュビル市街

写真―14　ブロードウェイの再開発現場で稼働中の建設機械群

地などの施設が集中しており，大通りに軒を連ねるバーからはカントリー音楽が流れ続けている。無秩序さもあるが治安は良く，休日ともなれば観光客で賑わい，活気に溢れていた。そんな市街のど真ん中で再開発工事が行われており，日本製の建設機械も多数稼動していたことが印象深かった。

（協会標準部会事務局記）